

国際事業本部

香港、タイ、シンガポール、マレーシア、ベトナム、ミャンマー、ラオスへ展開しています。

海外における長い経験と顧客との良好な関係を活かし、土木工事は公共性の高いインフラ整備、建築工事は日系企業の工場・施設案件を中心に事業を推進するほか、開発・不動産事業の取組みも始めています。

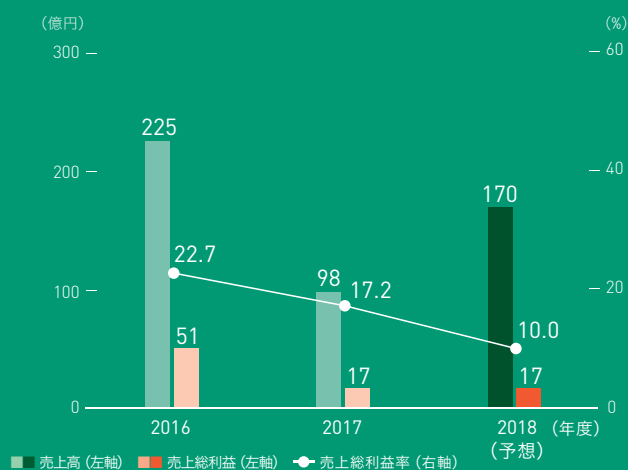


トランスミッションケーブルトンネル東西線第3工区（シンガポール）

強み

- ・安全で高品質なインフラや施設の構築の実績
- ・アジア各国での現地企業とのパートナーシップ

売上高／売上総利益／売上総利益率（個別ベース）



BCA Awards 2018受賞

2018年5月22日、シンガポールにおいて、Building and Construction Authority（建築建設庁）が主催する「BCA Awards 2018」が開催され、当社は「Nishimatsu Singapore」として1つ、「シンガポール地下鉄ダウンタウンライン第3期929A工事（2016年度竣工）」で2つ、合計3つの賞を受賞しました。

当社における、建設現場の生産性向上や、環境に配慮した現場管理といったこれまでの取組みが評価されました。



▶ 戦略解説

現地に浸透した事業形態、運営方式を柔軟に選択し、 日本の価値観と“ローカル化”のバランスをとった事業展開を図る

当社の60年近くの海外事業の歴史の中で、香港の中国返還（1997年）以降、海外事業の業績が不安定となっており、“大型土木工事の損益に事業全体が左右される”という図式から脱却し、安定した海外事業運営を図っていきます。

海外事業の現在の進出先であるアジア地域では、インフラ需要のポテンシャルが大きく、日系企業の進出もまだまだ活発です。建築、土木、開発・不動産の3本柱で運営を行い、10年後を見据え、それぞれ「拡大」「安定」「堅実」というキーワードで事業を展開していきます。従来どおりのインフラ整備事業に加えて、現地の官・民の建築工事にも手を広げ、また日系企業へのサービスを大幅に充実させることによ

注力ポイント

建築事業：拡大

- ・従来のインフラ整備事業に加えて、現地の官・民の建築工事を拡大
- ・日系企業へのサービスの充実

土木事業：安定

- ・変更契約の獲得を確実に行うことによって、安定した事業運営を行う

開発・不動産事業：堅実

- ・現地のニーズを見極め、パートナーと堅実な事業展開を行う

て、建築工事の受注増を図ります。これによって、現在100億円規模の子会社を中心とした日系民間建築事業を、トータルで300億円規模の総合的な建築事業に拡大し、10年後には同規模の土木事業と合わせて連結ベースで600億円規模を目指します。

3つの柱とそのキーワードである「建築⇄拡大」「土木⇄安定」「開発・不動産⇄堅実」を具現化するための最重要課題は、建築事業の「営業力強化」、土木事業の「入札・工事管理力強化」、そして開発・不動産事業の「ノウハウと市場適応性」です。国際事業本部の中だけでそれを達成することは不可能であり、各事業本部との緊密な連携と、国によって異なるニーズの見極めが不可欠です。海外拠点を通じての情報収集、市場の評価などを、現地パートナーと協働しながら、一步一步確実に進めていきたいと考えています。



国際事業本部長
林 謙介

▶ TOPIC

ラオスにおける日系工業団地の開発・運営

当社は2015年3月に、ラオスで日系ゼネコン初の合弁会社、ラオ西松建設（株）を設立しました。さらに2015年12月、ラオス南部チャンパサック県のパクセーで、「パクセー・ジャパン日系中小企業専用経済特区（工業団地）」の開発運営会社の設立に参画し、日系中小企業専用経済特区の開発を開始しました。

開発総面積は195ヘクタールで、東京ドーム約41個分の広さです。第1期分の開発エリア約66ヘクタールのうち、2017年8月に約13ヘクタールの造成を終え、現在、土地使用権を販売しています。

すでに、進出第1号の日系企業の工場が完成しました。その一方で、ラオス進出に関心があっても工場建設に踏み切れない中小企業向けに、レンタル工場を工業団地内に建設しました。また、現地の従業員確保のために、地元の職業訓練学校と提携し、人材育成にも取り組んでいます。

当社はパクセー工業団地に進出を望む日系中小企業が長期的・安定的に操業できる環境づくりにこれからも取り組んでいきます。

事業名：パクセー・ジャパン日系中小企業専用経済特区
（工業団地）

所在地：ラオス人民民主共和国チャンパサック県
パクセー市近郊



進出第1号の日系企業工場